

The年表

六甲サッカー部

昭和13年（1938）

- 開校 1期生入学

昭和14年（1939）

- クラブ活動開始（山岳部、体操部 etc）

昭和16年（1941）

- 2月 ●第1回強歩大会

（平野～箕谷～有馬～宝塚～西宮～六甲の53km）

- 10月 ●第1回体育大会実施

昭和23年（1948）

- 4月1日 ●サッカー部創設

昭和24年（1949）

- 初試合 対県立伊丹 3 - 2 勝利

第一回戦 対伊丹高（本校校庭）（午後三時）
初試合にも拘らず、全員斗志満々伊丹高校を本校校庭に迎え撃ち前半は一点をリードされたが、後半には全員一致團結して反撃に出臼井のロングシュートにより同点としその後續いて二点をあげ三對一とリードして敵に打つやうにこだわった。その後タイムアップ寸前敵に一点を許した。併し勝利は本校に歸したのである。
初試合には必ずまけることになっていた母校のあまり芳しくない傳統をうち破り、全校に蹴球部の地位を確乎不動たらしめた。
相手校の選手の體格は完全にわれわれを凌駕し、又豊富な経験があるにも拘らずわれわれが勝利を治めたのは日頃の練習・全員の團結と闘志によるものであり體力における惡條件と経験の淺きをカバーをしたものと思う。
特にこの試合において練習・團結・闘志の偉大さを痛切に感じた。又伊丹は悪々不法なチャージを試みたがわれわれが常に堂々とフエアープレーとスホーワマンシップをもつて對抗し得たことはよろこぶべきである。
この試合を通じてわれわれは個人としても部全體としても幾たびの教訓をうることができたことを相手校に感謝する。又生徒諸君の絶大なる應援に深く感謝し勝利を治めることができたことを償する、特に藏重・塚本の兩君に對しては感謝に耐えない。
この初試合に特に見るべきものは臼井君のロングシュートである。彼のキックはわれわれを勇気づけると共に蹴球部初めての点として賞めるべきものであろう。

昭和29年（1954）

- 県下春季大会（現兵庫県総合体育大会）

ベストフォー 準決勝対三原 1 - 2 で敗れる

世界のサッカー

昭和21年（1946）

- 第2次世界大戦終わる

昭和22年（1947）

- 国民体育大会開始

昭和26年（1951）

- 全日本選手権がこの年から天皇杯全日本選手権へ



昭和29年（1954）

- ワールドカップ・スイス大会

32連勝中のハンガリーを破り、西ドイツ優勝

六甲サッカー部

昭和30年（1955）

- 中学、港祭り大会で2、3位を確保

昭和31年（1956）

- 友方先生、ヒルケルさんがサッカー部に御尽力



友方先生

昭和33年（1958）

- 新人戦予選にて神戸高校に初勝利 2 - 1
- 第13回 国民体育大会予選
ベストフォー 準決勝対神戸 2 - 4 で敗れる



神戸高校戦

世界のサッカー

昭和31年（1956）

- 第16回オリンピック・メルボルン大会 日本代表出場
オーストラリアに1回戦 0 - 2 で敗れる



昭和33年（1958）

- ワールドカップ・スウェーデン大会
若冠17才のベレが登場。ブラジル初優勝



The年表

六甲サッカー部

昭和34年（1959）

- 佃先生就任
- 第3回 兵庫県総合体育大会
ベストフォー 準決勝対神戸0-3で敗れる
- 第12回 近畿高等学校サッカー選手権大会に出場
（於：和歌山）
- 運動場造成の工事開始
- 校内球技大会実施



昭和37年（1962）

- 5月 ● 神戸市新人大会優勝
- 10月 ● 秋季県大会神戸予選優勝
- 11月 ● 三都市（京都・大阪・神戸）大会優勝
- 12月 ● 県大会3位→近畿大会出場

昭和38年（1963）

- 兵庫県高等学校新人サッカー大会
ベストフォー 準決勝対市西宮1-1（抽選負け）

昭和39年（1964）

- 第19回 国民体育大会予選
ベストフォー 準決勝対福岡1-2で敗れる



世界のサッカー



ペレ

昭和35年（1960）

- デットマール・クラマー氏来日
六甲に来校・指導

昭和37年（1962）

- ワールドカップ・チリ大会
ブラジル連覇

昭和39年（1964）

- 10月10日
○ 第18回オリンピック東京大会開催
日本代表アルゼンチンを3-2で破る



六甲サッカー部

世界のサッカー

昭和41年（1966）

- 中学部 三都市大会出場 準優勝
近畿大会出場 対大淀 7 - 1
対箕面 3 - 0 → 甲陵 0 - 0
抽選負け 3 位
- 兵庫県高等学校新人戦大会
準優勝 決 勝 対関西学院 2 - 7
準決勝 対報徳 1 - 0

昭和42年（1967）

- 第19回 近畿高等学校サッカー選手権大会に出場
(於：滋賀)

昭和45年（1970）

- 兵庫県高等学校新人戦大会
ベストフォー 準決勝 対関学 0 - 1
- 第23回 近畿高等学校サッカー選手権大会に出場
(於：兵庫)
4 位 (3 位決定戦 対三原 0 - 1)

昭和46年（1971）

- 第15回 兵庫県高等学校総合体育大会
優 勝 (決 勝 対県尼崎 2 - 1)
(準決勝 対県芦屋 2 - 1)
- 全国高等学校総合体育大会 於：徳島
1 回戦 対米子工 4 - 0
2 回戦 対浜名 1 - 2



昭和41年（1966）

- ワールドカップ・イングランド大会
イングランドが“幻のゴール”で西ドイツを下し優勝



ジュールリメ杯にキスするボビー・ムーア主将

昭和43年（1968）

- 第19回オリンピック・メキシコ大会
日本代表 3 位 銅メダル獲得



昭和45年（1970）

- ワールドカップ・メキシコ大会
ブラジル 3 度目の優勝。ジュールリメ杯獲得



“黒い真珠” ペレのゴール

The年表

六甲サッカー部

世界のサッカー

昭和46年（1971）

- 兵庫県高等学校新人戦大会
準優勝 （決 勝 対神戸 0 - 2）
（準決勝 対県尼崎 1 - 0）
- 第24回 近畿高等学校サッカー選手権大会に出場
（於：滋賀）
1 回戦 対建国 2 - 3 敗れる

昭和47年（1972）

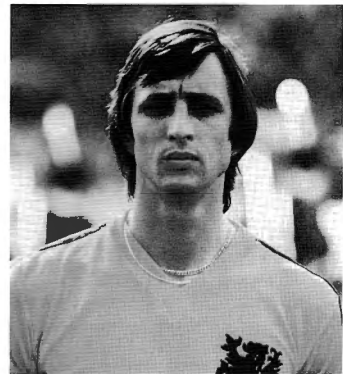
- 30期 神戸 弥、渡辺正直
第27回 国民体育大会（於：鹿児島）に出場
（1 回戦 2 - 3 北海道）
両名東南アジア遠征に参加
8 月10日 対タイ学生選抜 負け
8 月12日 対香港学生選抜 勝ち
8 月13日 対社会人選抜 負け
- 兵庫県高等学校新人戦大会
準優勝 （決 勝 対県芦屋 1 - 4）
（準決勝 対葺合 2 - 0）
- 第25回 近畿高等学校サッカー選手権大会
優 勝 （決 勝 対嵯峨野 1 - 0）
1 回戦 対畝傍 3 - 0
2 回戦 対京都商 2 - 1
（準決勝 対甲賀 1 - 1（抽選勝ち））



昭和48年（1973）

- 第17回兵庫県高等学校総合体育大会
準優勝 （決 勝 対神戸 0 - 3）
（準決勝 対兵庫工 1 - 0）

○クライフを中心とするオランダのトータル
サッカーがヨーロッパを席卷



ヨハン・クライフ

六甲サッカー部

世界のサッカー

昭和50年（1975）

●六甲サッカー部OBチーム

「六甲ヒルケル」発足

本場でサッカー武者修行

18人が欧州15日間

ヨーロッパ遠征前に、練習場に臨む六甲ヒルケルのメンバー



六甲ヒルケルクラブ

「夏休みにサッカーの本場、ヨーロッパへ武者修行」神戸市サッカーリーグの盛況を聞き、六甲ヒルケルクラブのメンバー十八人が八月十日から翌月の半まで

六甲ヒルケルは六甲サッカー部を母体として、昭和50年（1975）に発足した。当初は、市内の中学校のサッカー部員を中心に、約二十人からスタートした。その後、メンバーは徐々に増え、現在は約五十人となっている。クラブの目標は、国内大会での優勝と、国際大会での活躍にある。

ヨーロッパ遠征は、サッカーの本場であるヨーロッパ各国を回り、様々なチームと試合を行う。この遠征は、選手たちの技術向上と、国際的な交流を目的としている。遠征先には、ドイツ、フランス、イタリアなどが含まれる。

六甲ヒルケルクラブは、六甲サッカー部OBチームを中心に、市内の中学校のサッカー部員を中心に、約二十人からスタートした。その後、メンバーは徐々に増え、現在は約五十人となっている。

ヨーロッパ遠征は、サッカーの本場であるヨーロッパ各国を回り、様々なチームと試合を行う。この遠征は、選手たちの技術向上と、国際的な交流を目的としている。

六甲ヒルケルクラブは、六甲サッカー部OBチームを中心に、市内の中学校のサッカー部員を中心に、約二十人からスタートした。その後、メンバーは徐々に増え、現在は約五十人となっている。

ヨーロッパ遠征は、サッカーの本場であるヨーロッパ各国を回り、様々なチームと試合を行う。この遠征は、選手たちの技術向上と、国際的な交流を目的としている。

六甲ヒルケルクラブは、六甲サッカー部OBチームを中心に、市内の中学校のサッカー部員を中心に、約二十人からスタートした。その後、メンバーは徐々に増え、現在は約五十人となっている。

昭和49年（1974）

○ワールドカップ・西ドイツ大会

（優勝：西ドイツ）



フランツ・ベッケンバウアー



“爆撃機” G・ミューラー

昭和50年（1975）

○バイエルン・ミュンヘン来日

皇帝ベッケンバウアー、爆撃機G・ミューラー

昭和52年（1977）

○奥寺、日本人プロ第1号。「IFC ケルン」へ



奥寺康彦

昭和52年（1977）

●市川先生、六甲学院に就任

●六甲ヒルケルドイツ遠征



The年表

六甲サッカー部

昭和54年（1979）

- 第1回ワールドコース大会 神戸で
音楽部フィールドプレーで参加
- 神戸市市民大会
KFCを破り優勝
- 神戸市総体優勝



昭和56年（1981）

- 兵庫県高等学校新人戦サッカー大会
優勝（決勝 対伊丹北 0-0 両校優勝）
準決勝 対小野 3-2
- 第34回 近畿高等学校選手権大会出場（於：和歌山）
2回戦 対清風 0-2

世界のサッカー

昭和53年（1978）

- ワールドカップ・アルゼンチン大会
（優勝：アルゼンチン）



得点王・マリオ・ケンベス

昭和54年（1979）

- 第1回ワールドユース大会
優勝：アルゼンチン

昭和56年（1981）

- 釜本邦茂 JSL 通算200ゴール達成！
神戸中央
- トヨタカップ フラメンゴ（南米代表）
対リバプール（欧米代表）
ジーコの活躍

昭和57年（1982）

- ワールドカップ・スペイン大会
（優勝：イタリア）
マラドーナがボカ・ジュニアースの一員として来日



ジーコ

六甲サッカー部

世界のサッカー

昭和57年（1982）

- 40期 堤 康、41期 山本雅彦

第37回 島根国体に出場

優勝	1回戦	1 - 0	広島
	2回戦	1 - 0	埼玉
	3回戦	3 - 0	名川
	4回戦	2 - 2 PK勝	東京
	決勝	1 - 1	静岡

昭和58年（1983）

- 堤、山本両名 イギリス・スコットランド遠征に参加

昭和59年（1984）

- ヒルケルさん帰天



ヒルケル

昭和60年（1985）

- 中学新人戦 準優勝

1回戦	3 - 0	対垂水
2回戦	1 - 0	対本庄
3回戦	1 - 0	対高倉
準決勝	1 - 1 (PK 3 - 7)	対山田
決勝	0 - 5	太田

昭和59年（1984）

- 日韓定期戦
- 日本代表アウェイで初勝利 2 - 1

昭和60年（1985）

- トヨタカップ ユベントス VS アルヘンチノス・ジュニアーズ
- プラティニが活躍
- ユニバーシアード神戸大会開催

昭和61年（1986）

- ワールドカップ・メキシコ大会
- (優勝：アルゼンチン)



ミシェル・プラティニ



ディエゴ・マラドーナ

The年表

六甲サッカー部

昭和62年（1987）

- 兵庫県総合体育大会 ベスト16

平成元年（1989）

- 兵庫県新人戦神戸市大会 2位

平成3年（1991）

- 兵庫県総合体育大会 4位
- 和歌山遠征

平成5年（1993）

- 佃先生教頭就任。サッカー部顧問を退任

世界のサッカー

平成5年（1993）

- 日本代表 アジア大会優勝
- Jリーグ開幕



三浦 知良



鹿島アントラーズ



ジェフ市原



浦和レッズ



ヴェルディ川崎



横浜マリノス



横浜フリューゲルス



清水エスパルス



名古屋グランパス



ガンバ大阪



サンフレッチェ広島